令和４年度　事業報告書

自 令和４年４月１日

至 令和５年３月３１日

(総括的概要)

令和4年度は、新型コロナ感染症が4月より徐々に拡大し、夏休みに入った8月にピークを迎える状況となり、数カ所のクラブで閉所を余儀なくされた。関係クラブの保護者の皆様には、大変ご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げたい。感染対策等については、引き続き各クラブで徹底するようにしたい。

今年度は、安全な放課後児童クラブの環境整備の観点から、「入所要件等の見直し」を、安定したクラブ運営を行う必要から、「保育料の見直し」を理事会で審議頂いた。それぞれの現状と問題点から、課題点と解決策を議論し、ある一定の結論を導き出すことができた。実質8月から10月までの集中審議であったが、各クラブ役員及び理事のご協力で解決策の承認を頂いたことに感謝申し上げたい。

ただし、「保育料の見直し」については、筑紫野市から「物価高騰の折、子育て世代の保護者の負担が増えることから、何らかの手立てができないか検討したいと」申し入れがあり、筑紫野市からの回答を待っているところである。

いずれにせよ、クラブ運営予算はひっ迫しており、現状のままでは数年後に経営破綻を起こさざるを得ない状況にある。安定的なクラブ運営を目指すためにも、この問題を避けては通れないと考える。今後とも、会員の皆様のご理解ご協力をお願いしたい。

(重点課題と具体的成果)

1. 安全な放課後児童クラブの環境整備

新型コロナ感染症の拡大に伴い、子ども同士が密接な状態になる放課後児童クラブの受入れ可能な児童数について、理事会で議論した。各クラブの部屋の広さや支援員数及び児童数から、安全で最適な環境を担保できるクラブ定数を導き出すことができた。この課題は、毎年児童数が変化することから、継続して理事会で審議していくこととしたい。

1. 学校・地域・行政との連携強化

各クラブが小学校内にあることから、所管する市教育委員会及び学校とは密接に連携を図り、クラブ運営を行っている。特に、コロナ感染症が拡大する中、市教育委員会と連携して感染者の把握と濃厚接触者の特定を素早く行い、感染拡大の防止を図った。地域との連携は、本年度も行事が制限されたことで不十分となった。

1. 安定したクラブ運営計画の立案

令和5年度以降の安定したクラブ運営を目指すため、ちくしっ子ネットワーク財政収支キッシュフローを作成し、2023年から2027年までの財政収支予測を行った。今後、財政赤字の累積が見込まれており、「保育料の見直し」は喫緊の課題となっている。